

シンラの旅-8 「出羽三山に行く」

霊峰月山、死と再生の小宇宙



エッセイ
芦原 伸



SINRA

CONTENTS

各見出しリンク

▶ **SINRA-1 2014.9**
「小豆島」 オリーブカントリー

▶ **SINRA-2 2014.11**
「秋田」 マタギの里へ

▶ **SINRA-3 2015.1**
「富岡」 富岡製糸場の歩き方

▶ **SINRA-4 2015.3**
「北海道」 北海道ワイン紀行

▶ **SINRA-5 2015.5**
「小笠原」 黒潮の孤島鶴来島漂流

▶ **SINRA-6 2015.7**
「大台ヶ原」 熊野古道をいく

▶ **SINRA-7 2015.9**
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日

▶ **SINRA-8 2015.11**
「霊峰月山」 死と再生の小宇宙

▶ **SINRA-9 2016.1**
「丹後」 古代王国と、絹をめぐる道

▶ **SINRA-10 2015.3**
「秩父」 絶滅危惧種再生へ、開ける道

▶ **SINRA-11 2016.5**
「佐賀」 大海を越えた胡蝶の夢

▶ **SINRA-12 2016.7**
「津軽」 ブラキストン幻の海

▶ **SINRA-13 2016.9**
「五島列島」 クジラたちの海

▶ **SINRA-14 2016.11**
「飯田」 天空の里、遠山郷

▶ **SINRA-15 2017.1**
「北海道」 ジンギスカンをめぐる冒険

▶ **SINRA-16 2017.3**
「宮城県」 猫たちの聖地

▶ **SINRA-17 2017.5**
「京都」 神が授けた、いのちの水

▶ **SINRA-18 2017.7**
「熊楠」 の森をめぐる冒険

▶ **SINRA-19 2017.9**
「カナダ」 極北の大地に生命が燃える

▶ **SINRA-20 2017.11**
「宮崎」 神楽仮面の謎を探る

ご購入

 Fujisan.co.jp
雑誌がオンライン書店

ご購入

 amazon.co.jp
プライム

出羽三山に行く 霊峰月山 死と再生の小宇宙

ADVERTISING & EDITORIAL TEMJIN PUBLICATION ADMINISTRATION
POSTED CERTIFICATE
SINRA
Approved by
天夢人



山岳信仰の聖地として知られる山形県・出羽三山。
修験者・参詣者たちが集うこの地には、羽黒山で現世利益を、
月山で死後の体験を、そして湯殿山で新たな生命を授かり
生まれ変わるという神秘の旅路が用意されている。
転生の先に、人々はどんな来世を生きるのか——。
うっそうと生い茂る山の中に答えを探した。

文◎芦原 伸(ノフィクション作家)、撮影／戸川 寛
協力／山形県、月山朝日観光協会、西川町商工観光課



蜂子皇子（はちこのおうじ）の肖像画。出羽三山を開祖したとされる飛鳥時代の皇族。人々をあらゆる苦惱から救うことから能除太子と称された

蜂子皇子は人々を救った

盛夏の8月、山形県の鶴岡から羽黒山神社をめざした。今年は7月から連日うるような猛暑が続いていた。東京から鶴岡まで来ると、暑さは少し和らいだが、気温は30度を下回らず、海からの湿気を帯びた風が汗ばんだ肌にとわりつくようであった。

市街地を出て、緑一色の水田の広がる庄内平野を車で走ると、小高い黒い山塊が迫り、道路に巨大な朱の鳥居が立ちはだかった。これが羽黒

たる。一説によると、敵対した蘇我一族の横暴を畏れ、聖徳太子が北へ逃がしたという。大和から丹後の由良へ出て、日本海沿岸を辿り、鶴岡の西南、八乙女浦に上陸。そこで神の使いの三本足の八咫鳥に導かれ、羽黒山に向かった。羽黒山の阿久谷で3年余暮らし、難行苦行の修行を積んだ。

伝説では皇子は奈良の都から出羽国に幸をもたらしてくれた恩人である。五穀の種を持ち込み、農耕を伝え、病氣治療を施し、多くの人々を救ったという。のちにその業績をたたえ、民の苦悩を能く除いた、ということから能除太子と称されたという美談が残る。

出羽三山の旅は意外な発見からはじまった。異彩を放つ、一見野獣のような風貌の皇子が開いた羽黒山とはいかなるところなのだろうか。

芭蕉も出羽三山を歩いていた

羽黒山は標高414メートル。山というよりは高原、森に近い。平成の出羽三山のぐりは車があれぱいとも楽で、この羽黒山も舗装道路が神社境内まで通じており、麓の手向集落から車で約10分のところだった。

山神社の入口なのだろう。やがて門前町の手向集落が現れ、カメラを手にした団体観光客が日傘をさして歩くのが見えた。手向は宿坊や食事処、土産物屋が立ち並ぶ羽黒山参詣の中心地だ。ここから道は表参道の石段へと続き、五重塔を経て山頂へ向かっている。その一角に「いでは文化記念館」があった。今回の旅の最初の訪問先である。「いでは」とは出羽の古語である。

昭和時代の面影を残す門前町のなかであって、いささか異色な近代的な建物だが、広々としたホールでは羽黒山修験道の歴史や文化を展示物や映像で学べ、ほら貝吹きの体験ができる場もある。事前知識を仕込むもつとも表参道の2446段の石段を足で登るには、相当な気力と体力が必要だが……。

うっそうとした杉木立の中に荘厳とした羽黒山神社、三神合祭殿が聳える。出羽の山中と思えば異様な大きさである。広い境内には白装束の信徒の姿もあった。くたびれたTシャツ、薄汚れたジーンズがお洒落とされる時代に、若い女性の山伏姿は清潔感にあふれ、新鮮でもある。芭蕉の道行姿の銅像、蜂子皇子の塚などがあり、社殿前には鏡池があった。水蓮、水草が茂るなかに清らかな水をたたえている。この池から銅鏡が幾多発掘された。平安時代から江戸中期のもので、信者の女性が身代わりとして沈めていったものだろう。鏡は人の心を映すといわれ尊重された。この池の水は蜂子皇子が上陸した日本海に面した八乙女浦と地下でつながるといふ伝説も残っている。

羽黒山神社は修験道の聖地である。修験道が広めた三山信仰は南北朝時代、14世紀半ばの成立とされ、江戸時代に広まった。

出羽三山歴史博物館を訪ねた。ここでも蜂子皇子の肖像画を見ることができた。その隣には役小角の小さな木彫像が置かれている。役小角は老翁風で、極限まで瘠せており、とても空飛ぶ怪人とは思えない。



にはかつこうのスポットだ。またここでは山伏の体験塾も主催している。

装束や杖、烏帽子、笈などの展示物の一角に、出羽三山の開祖といわれる蜂子皇子の木像を見て、一瞬身が固まった。この人物が本当に開祖様なのだろうか？ 天狗？ あるいはオオカミの生まれ変わり？ 一見すると怪物のようである。

口は耳元まで裂け、鼻の高さは3寸（約9センチメートル）あり、顔の長さは1尺5寸（約45センチメートル）あったという。おまけに顔、肌の色は赤黒い。

蜂子皇子は6世紀末、第32代崇峻天皇の子で、聖徳太子の従兄弟にあ

「ずっと隠されてきたのです。明治政府はそれまでの神仏習合だった羽黒山を廃仏毀釈令で仏教、修験道を断ち切りました。仏具はすべて取り除かれ、その時、蜂子皇子の像は僧侶の姿をしていたので密封されたのです。皇子の木像は普段は公開されず、御開帳の時しか見られませんが、御開帳の時しか見られませんが、今回あなた方が見られたのは、たまたまイベント会期中だったからです」と、学芸員の渡部幸さんは言う。

そうだったのか、そう思えば、蜂子皇子のその後も気の毒だったのだ。政治とはそもそもその政の意だが、権力は時代を制するために仏教、修験道を捨て去った。

「皇子の顔が異様なのは多くの人々の苦悩を取り除いたためで、自らがその苦悩を背負い、醜くなったとも伝えられています」

出羽三山信仰は江戸時代、東北一円から関東各地に広がった民間信仰である。伝道したのは山伏と呼ばれ修験者たちで、ほら貝を手を持ち、白装束に白の鉢巻き姿で知られる。

修験道の歴史は古く、奈良時代に遡る。日本古来のアニミズム（精霊信仰）に基づくもので、山中の修行により自然と融合し、呪力を得ようとした。7世紀末、大和葛城山で修行した役小角を祖としている。役小角は熊野や大峰の山々で修行を積

山

形

観光



▶ 出羽三山神社公式ホームページ



ニッポン文化応援マガジン 好評発売中

旅の手帖

10月号

定価596円(税込)

【第1特集】
趣味の達人が教える
とっておきの
ひとり旅

- 湯っこの達人—みちのく紅葉露天
- 町歩き—達人一歩いて楽しい昔町
- ハイキングの達人—秋の花ハイキング
- アート—達人—今秋のアートイベント
- 島の達人—気軽にいける島
- 駅チカ「ひとり歓迎」の温泉宿 ほか

【第2特集】
45都道府県のショップ情報
東京・アンテナショップ

連載 ニッポン路線つたい歩き
小野田線の終着駅へ
絶景! 温泉 須川温泉(秋田県)



オールカラー JRグループ協力

お求め・お問い合わせは
交通新聞社 販売部

TEL 03-6831-6622 (平日9:30~18:00)
FAX 03-6831-6624
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-3-11 NBF御茶ノ水ビル
交通新聞社オンラインショップ
<http://shop.kotsu.co.jp/>

ナチュラルな鶴岡シルク kibiso

鶴岡発、やさしい新素材
kibisoは日本最北の絹産地、山形県庄内地方・鶴岡市発のフアッシュヨンプランド。漢字で書くと「生皮空」となるが、これはカイコが繭をつくる際に最初に吐き出す糸のこと。太さが均一ではなく加工しにくいことから繊維として使われることがなかった素材を絹織物の製作に活用。伝統的な養蚕、現代のフアッシュヨンスンが融合したブランドだ。世界的なテキスタイルデザイナー・須藤玲子さんの手がけた和風のストール、バッグ、ブックカバーなどはいずれも上品なテイスト。

アンテナショップ/
「荘内藩」松ヶ岡店
鶴岡市羽黒町25
0235-62-4295
10:00-16:30
月曜(祝日の場合は翌日)、
冬季(12~3月)休業

※ウェブサイトからの購入も可能
<http://www.t-silk.co.jp/>



kibisoの特徴は、使い込めば柔らかく肌に馴染むこと。ナチュラルな素材なので肌への負担が少なく乾燥肌、敏感肌の人におすすめ

